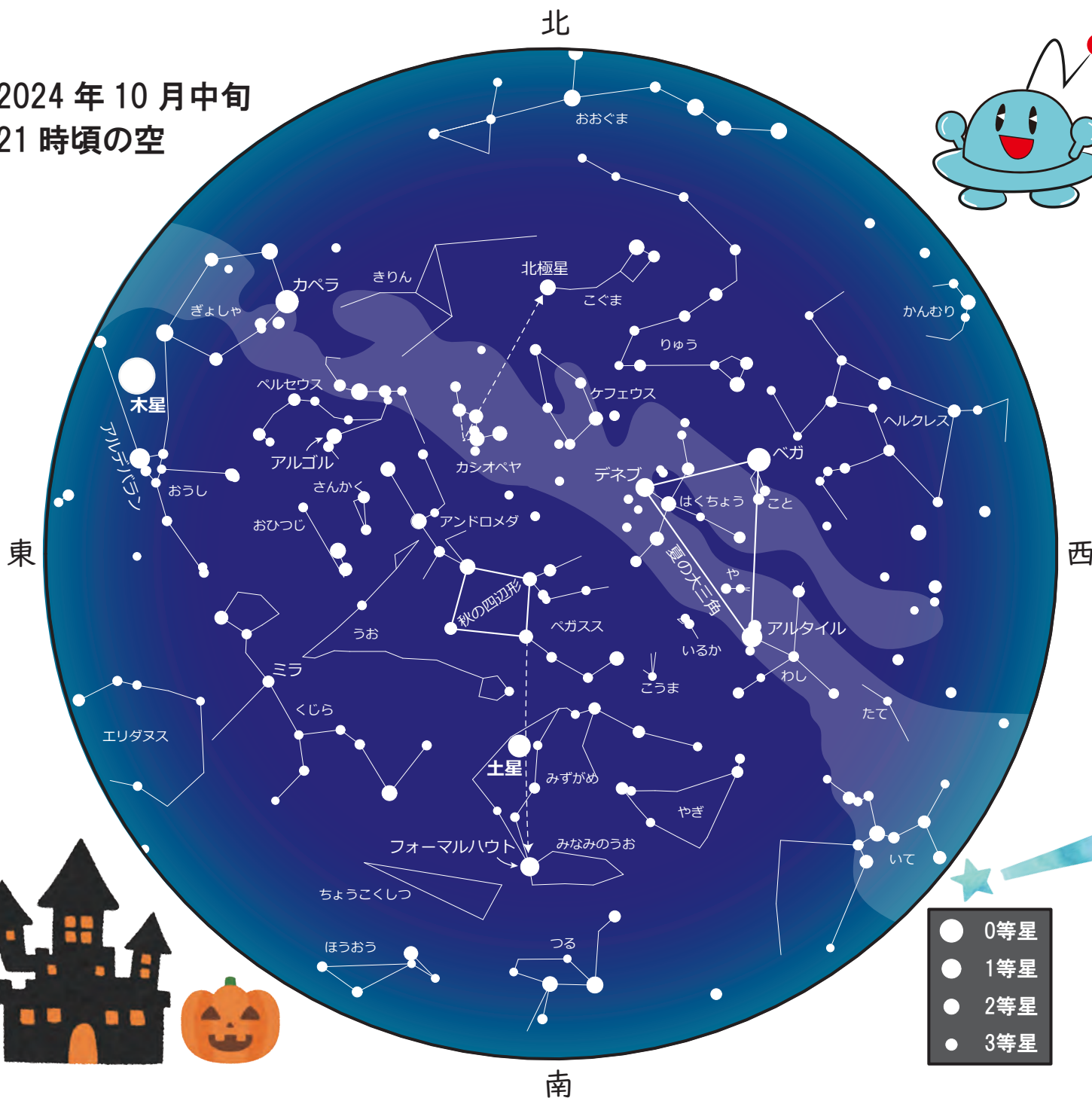
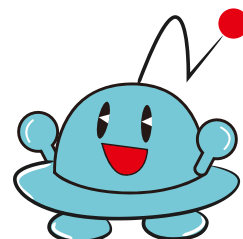


10月の星空案内

2024年10月中旬
21時頃の空



秋は明るい星が少なくちょっと寂しい夜空です。主張の強い夏の一等星とは打って変わって秋の一等星はひとつしかありません。そんな唯一の一等星は**秋の四辺形**の西側二つの星を結んで南の方へ下ると見つけることができる**みなみのうお座のフォーマルハウト**（1.2等）です。フォーマルハウトを見つける時に少し明るい星があったと思いますが、それは恒星ではなく惑星である**土星**です。土星はこの秋から見ごろをむかえ、今年の12月には**土星食**、来年には**環の消失**など、これからたくさんの天文イベントがある天体です。北東の空にはアルファベットのWのような星の並びをした**カシオペヤ座**があります。カシオペヤ座は**北極星**を見つける目印となり、星図のように探すと、簡単に北極星を夜空で見つけることができます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

10月の月の満ち欠けと惑星について



新月
3日



上弦
11日



満月
17日



下弦
24日

天体観望会で 月が見えるおすすめ日時は？



10/12(土)
全ての回で観察可能



10/19(土)
20時、21時の回で観察可能

水星：観察は難しい。

金星：夕方、西の低い空で宵の明星として見える。【約 -4.0 等】

火星：後半夜、東の空で見える。【約 0.3 等】

木星：前半夜から昇り始め、ほぼ一晩中見える。【約 -2.6 等】

土星：日没から明け方にかけてほぼ一晩中見える。【約 0.7 等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



10/17は年内最大の満月です。ちなみに年内最小の満月は2/24にありました。月の見かけの大きさは地球からの距離に応じて最大約十数%変化します(上写真)。

注目の天文現象

【令和の大彗星なるか!?】紫金山・アトラス彗星が見頃をむかえる

紫金山・アトラス彗星は中国の紫金山天文台と南アフリカのアトラス望遠鏡によって2023年に発見された彗星で、この10月には肉眼で見ることができると言われています。

観察は9月後半から10月後半までが好機です。彗星の観察をするときは、まず方角と時間帯を確認しておくことが大切です。9月末から10月始めは東の空明け方で、10月12日からは日没後の西の空に見え始めます。10月12日から18日にかけて18時30分に見える彗星の位置が図1になります。空も次第に暗くなってきて、朝早く起きる必要もなく、双眼鏡や望遠鏡でラクに見やすい時間です。低い場所に見えている金星を目印にさがすと良いでしょう。彗星は太陽の近くを通るため、どうしても地平線に近い日ほど明るく見えます。なので地平線が見えるような見晴らしのいい環境で観察をしましょう。

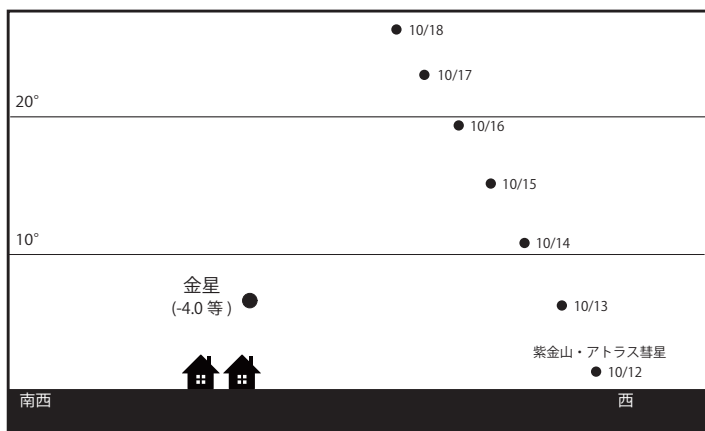


図1：紫金山・アトラス彗星位置予報
(徳島県阿南市 空は10月12日18時30分のもの)
ステラナビゲーターをもとに作成

ではこの彗星、いったいどれくらい明るくなるのでしょうか。結論から言うと、はっきりとは分かりません。専門家の間で議論が続いており、2等級までしか明るくならないという意見もあれば、マイナス4等級まで明るくなるという意見もあり、まちまちです。図2は当科学センターの113cm大型望遠鏡で5月に撮影した紫金山・アトラス彗星の姿です。この時はまだ約10等級でしたが、彗星の尾をしっかりと確認することができます。

人や物が突然現れることを「彗星のごとく現れる」とよく表現されますが、この彗星も令和の大彗星と呼ばれるくらい空で明るく輝くのか、太陽に近づいて崩壊してしまい、残念な結果に終わってしまうのか。こればかりは彗星が近づいてこないとわかりません。観察できる日が近づいてきたらぜひ空を見上げて自分の目で確認してみてください。



図2：紫金山・アトラス彗星 (C/2023 A3)
(5月に四国最大の望遠鏡で撮影)